

## 令和6年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時 令和6年6月6日（木）15時00分～16時00分

場所 石狩市役所4階 401・402会議室

出席者 小島郁也会長、岸邦宏副会長、佐々木宏嘉委員、熊谷貞治委員、遠藤辰哉委員、平井克典委員、小島義広委員、桑山渉委員、河合保郎委員、高眞一委員、池田篤司委員、經龜真利委員、高橋英雄委員、杉村勝彦委員、渡部道夫委員、小山玲子委員、渡邊恭子委員、早川真樹委員

事務局 企画課交通担当課長 佐々木拓哉、企画課交通担当主査 江島紀和  
企画課交通担当 山本雅広

傍聴者 なし

次第

1. 開会

2. 議題

(1) 地域公共交通確保維持改善事業に係る計画認定申請（令和7年度補助年度 地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）について

(2) オンデマンド交通による実証運行について

3. その他

4. 閉会

==== 審議内容の記録（審議経過、質疑、意見等） =====

※ 以下の質疑・意見については、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨

1. 開会

2. 議題

(1)（地域公共交通確保維持改善事業に係る計画認定申請（令和7年度補助年度 地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）について（※事務局より説明）

●地域公共交通確保維持改善事業に係る計画認定申請（令和7年度補助年度 地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）について<資料1>

【質疑・意見】

○自家用有償運送の収支率について、目標値が14%という説明があったが、その根拠は何か。

●地域公共交通計画は7年間の計画であり、7年後には自家用有償運送の収支率20%を目標値としている。昨年度が13%であることから、今年度で1%増の14%を目標

## 令和6年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会（R6.6.6）

値とし、7年かけて7%増の20%を目指すもの。

### （2） オンデマンド交通による実証運行について（※事務局より説明）

#### ●オンデマンド交通実証運行について<資料2>

##### 【質疑・意見】

○オンデマンド交通のアプリ登録者の数はどのくらいか。

●システム会社にアプリダウンロード及び利用した人数算出を依頼し、市内オンデマンド、通勤オンデマンド合わせて200人弱程度の利用者数であった。

○通勤オンデマンドについて令和5年度の利用企業者数は14社となっているが、令和6年度から新たに利用を始めた企業数は何社か。

●新年度からは9社様が新たにご利用となっており、合計23社様の利用。

○資料の中で乗継便が市内オンデマンドの中に入っていると思われるが、通勤に利用されているのであれば、通勤オンデマンドに入れるべきではないか。

●乗継便については、アプリにおいても市内オンデマンドから予約入力をする仕様となっている。結果として通勤に活用できるものであり、集計上も市内オンデマンドとなる。

○乗継便とは何を乗り継ぐ意味合いなのか。

●北海道中央バスとオンデマンド交通の乗り継ぎを意味している。

○オンデマンド交通の乗車データについて、もっと分析をするべきと思う。運行エリアの中で、どの地域が一番利用されているのか。本来、生振地域が公共交通空白地域であれ、そこを何とかしたいというのが出発点だったはず。その目的が達成されているかの検証は必要ではないか。システム会社に対し、市から上記データを要求するべき。

生振地区以外の利用については、北海道中央バスが走っている地域でもあるので、なぜオンデマンド交通を利用したのか、その理由も大事なのではないか。

●今後、石狩市にてシステムからデータを検証予定。検証結果については、次回以降の協議会にて共有させていただく。

## 6. 閉会

令和6年度第1回石狩市地域公共交通活性化協議会（R6.6.6）

令和6年7月5日 議事録確定

石狩市地域公共交通活性化協議会

会長 小島 郁也

